

# 木づかい、 推進月間



福島県に建てられた  
ログハウスの応急仮設住宅  
(一般社団法人日本ログハウス協会 東北支部)



地産一貫集約建築の  
「山からの家造り」で建てられた家  
(スモリ工業株式会社)



全国間伐・間伐材利用  
コンクール受賞後の記念撮影  
(株式会社磐城高峯)



石巻港での製紙用チップ積込風景  
(日本製紙木材株式会社)



ボランティアスタッフ、  
仮設住宅住民と一緒に作った間伐材の縁台  
(株式会社ソーケン)

林野庁では、国産材の積極的な利用を通じて山村を活性化し、CO<sub>2</sub>を吸収する元気な森林づくりを進めるため、国産材を広く利用していただくことを目的とした木づかい運動を行っています。  
とくに10月は「木づかい推進月間」として、木づかいに関する多くの行事やイベントなどの取組を行っています。各地で開催される木づかいに関するイベントは林野庁のホームページで紹介していますので、ぜひご参加ください。  
今回の特集では、平成24年度「木づかい運動」顕彰で、とくに東日本大震災の復興・復旧に関する取組に功績のあった企業・団体に感謝状を贈呈する取組「法人日本木材総合情報センター」理事長感謝状(特別部門)に輝いた受章者をご紹介します。

## 木づかい 運動とは

「木づかい運動」は、暮らしに国産の木材を使った製品を取り入れて、日本の森林を育てるエコ活動です。私たちが国産材を使うことで、森林を育てる資金が山に還元され、間伐などの森林の手入れが行き届いて、元気な森林が育まれます。

我が国では国産の木材があまり使われていないため、手入れが行き届かないヒノキ、スギなどの人工林が増えています。暮らしのなかで国産材を使うことで、「植える」・「育てる」・「収穫する」・「上手に使う」という森の健康なサイクルが始まり、CO<sub>2</sub>をたっぷり吸収する元気な森林をつくれます。

生活のなかに国産材を採り入れる「木づかい」は、誰にでもできます。木のぬくもりを身近に感じる生活が、地球温暖化防止につながり、日本の森林を本来の姿に戻していくのです。

家庭で、学校で、オフィスで、積極的に国産材製品を採り入れてみませんか。



木づかい運動情報サイト  
**木づかい.com**  
<http://www.kidukai.com/>

「木づかい」についての情報をまとめたサイトです。製品情報から環境、木育、木の基礎知識など、さまざまなトピックスを紹介しています。さらに木づかいコミュニティでは掲示板を設け、製品や木に関する質問をしたり、ワークショップの告知をしたりなど情報交換ができます。

### 木づかい推進月間関連イベント

行事名	開催時期	開催場所	主催者
消費者の部屋	9月24日(月)~28日(金)	農林水産省北別館1階	林野庁
木づかい推進月間2012 キックオフ記念シンポジウム	10月1日(月)	第一生命相互館110タワー	美しい森林づくり全国推進会議、NPO法人活木活木森ネットワーク
木づかいWEEK2012 in TOKYO	10月2日(火)~6日(土)	港区立エコプラザ	美しい森林づくり全国推進会議、NPO法人活木活木森ネットワーク
木づかいWEEK2012 in TOKYO	10月7日(日)~8日(月)	港区立エコプラザ	美しい森林づくり全国推進会議、NPO法人活木活木森ネットワーク

株式会社磐城高箸は、国産間伐材の杉を原料とした割り箸の製造・販売を行っている福島県いわき市の企業。国内最高の割り箸製造を目指し、昨年2月に本格稼働を開始してまもなく東日本大震災に見舞われました。

およそ3か月間の休業を経て、6月上旬に業務再開にこぎつけた頃、東京と福岡のデザイナーによるボランティア集団から箸を使った震災復興企画を持ちかけられ、完成したのが、福島県いわき市の「磐城杉」、岩手県陸前高田市周辺で産出する「気仙杉」、宮城県栗原市周辺で産出する「栗駒杉」を使用した割り箸「三県復興 希望のかけ箸」。同じ境遇にある3県の復興を同時にアピールすることを願って作られた割り箸は、平成23年度全国間伐材・間伐材利用コンクールで間伐推進中央協議



陸前高田市・戸羽市長に義捐金贈呈

会長賞を受賞しました。「希望のかけ箸」は、1セットの売上のうち150円が義捐金となり、木材の産地である福島県いわき市、岩手県陸前高田市、宮城県栗原市にそれぞれ50円ずつが寄付されています。

東日本大震災復興 特別部門 **感謝状**

被災地復興の 願いをこめた 『希望のかけ箸』

いわきたかはし 株式会社磐城高箸

ホームページ

<http://iwaki-takahashi.biz/>



三県復興 希望のかけ箸

株式会社ソーケン は、平成22年に間伐材の普及促進を目的として「間伐材普及促進会」を立ち上げ、間伐材を使用した玩具等を見守り施設等へ寄付するとともに、間伐材商品の販売で得た収益の一部を児童養護施設の改修に役立ててきました。平成23年からは、商品製作の一部を福祉作業所に委託することで雇用の改善と賃金確保にも協力しています。

また、東日本大震災で被災された方が暮らす仮設住宅の憩いの場として欲しいと、間伐材を利用した縁台セットを作り、被災者の方々やボランティアスタッフと共に設置する活動を展開。今年5月までに3か所の仮設住宅で110台を設置しました。さらに仮設住宅で暮らす方の収入支援のため、ヒノキの間伐材を利用したお守りの絵付

間伐材に関わる 全ての人が 笑顔になる取組を

株式会社ソーケン

ホームページ

<http://www.soken-shop.jp/sb/>



福祉作業所に間伐材の加工を一部委託



間伐材お守りを 内職委託しています



完成した間伐材 ヒノキ入浴材雑貨

けや、子どもの積み木としても使える「入浴材雑貨」の製作などを内職委託しています。

捨てられてしまう間伐材の引き取りに始まり、加工の一部を福祉作業所に委託し、加工された材料を仮設住宅に内職委託、そして販売収益の一部を見守り施設の改修工事費用にするという仕組みを通し、「関わる全ての人が笑顔になる」取組を展開しています。

## 木の持つ温かさ、 快適さを感じる ログハウスの応急仮設住宅

一般社団法人日本ログハウス協会 東北支部

ホームページ

<http://www.log-house.gr.jp/>



ログハウスによる応急仮設住宅外観

## 「山からの家造り」 で木材生産地に 売り上げを還流

スモリ工業株式会社

ホームページ

<http://sumori.jp/>



「山からの家造り」で建てた家

昨年4月、東日本大震災による避難者向けに、福島県が行った応急仮設住宅建設の公募で、一般社団法人日本ログハウス協会東北支部は福島県産等スギ材を用いたログハウスの仮設住宅を提案し500棟を受注。さらに同年7月の2次募集でも支部会員メーカーが100棟を受注しました。

建設資材の確保等極めて困難かつ短期間の懸命な施工となりましたが、建設されたログハウスは、住み心地や快適性を生かし、同時にログ部材の数を少なくし現場施工性にも配慮しています。

また、ログハウスの木材使用量は在来軸組工法に比べ2〜3倍程度になり、福島県産のスギ材を使用することによる、国産材の利用拡大と地元森林・林業への貢献も狙いの一つとなっています。併せて、このログハウスの仮設住宅



応急仮設住宅内部

は解体移築や間取り変更移築にも対応可能で、高い利便性を有しており、ログハウスの新分野を開拓したとも言えます。

なお、これらログの応急仮設住宅分野での取組み、特性が評価され、ログハウスの仮設住宅は、平成23年度ログハウス建築コンテストで国土交通大臣賞を受賞しています。

山で木を育て伐採する人、それを工場で加工する人、運ぶ人、現場で家に組上げる人、これらのプロとして現場で額に汗して働く人たちによる地産地消集約建築の家造りが「山からの家造り」です。

東日本大震災で地場産業であるスモリ工業では、これまでに弊社で家を建てた約4000家族のお客様の殆ど全てが震度6弱以上の地震に見舞われ、大津波の被害に遭われたお客様の数だけでも数百軒となりました。一年半が経過する中、大きな被害のお客様こそほぼ修復は完了致しましたが、まだまだメンテナンス活動は続いています。

こうした中にあっても「山からの家造り」は全く変わりにくく続けています。また、大津波の直撃を受けた多くの戸建住宅が壊れて流されてしまったなか、



「山からの家造り」で建てた家だけが1軒だけ破壊されずに残ったという事例も数多くあり、家にいたため命を守ることができたという報告も頂いております。今後も「山からの家造り」に邁進して参ります。  
(スモリ工業株式会社・山本達夫さん談)

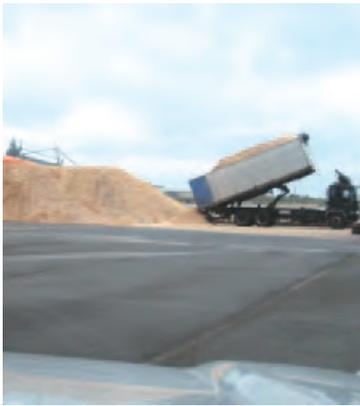
日本製紙木材株式会社では、昨年3月に発生した東日本大震災により、宮城県にある製紙用チップの納入先、日本製紙株式会社石巻工場および岩沼工場が甚大な被害を受けたことにより、供給が寸断された東北地方の製紙用チップを内航船を活用して、関東地方・近畿地方・西日本地方への移出を行いました。その移出量実績は平成23年度で43,103m<sup>3</sup>に及んでいます。

震災後に操業を再開した東北地方の製材工場は主に国産材を原料としています。しかし万一、製品を生産する過程で産出する背板チップの引き取りが滞った場合、製材工場は操業を停止せざるを得ない事態に陥ります。

内航船による移出策を施すことにより、東北地方の製材工場の操業停止を回避し、震災からの復興資材等の安定

供給に対する一助を担い、被災地復興に寄与することができました。また同時にチップ專業業者からのチップも移出を行うことにより、チップ供給を継続的に行い、国産材消費に対する震災の影響を最小限に抑えることができました。今後も原料の安定供給等を通し、国産材利用の拡大に貢献していきたいと思っております。

(日本製紙木材株式会社・西恵治さん談)



酒田港での集荷作業

## 製紙用チップの移出で復興資材等の安定供給に寄与

日本製紙木材株式会社

ホームページ

<http://www.np-l.co.jp/>



石巻港での積み込み作業

### 平成24年度「木づかい運動」顕彰受章者の取組概要

農林水産大臣 感謝状	大規模国産材 供給・利用部門	島根合板株式会社(島根県)	・日本初のSGEC認証杉合板の製造に着手
		株式会社東海木材相互市場(愛知県)	・原木市場の新たな機能創出として山元原木集積場サテライト美並を開設
	国産材利用推進部門	テクノウッドワークス株式会社(栃木県)	・大手ビルダーの管柱、羽柄材等を国産材に変更
		河野興産株式会社(愛媛県)	・介護用家具等の木材利用分野の新規開拓 ・内装・家具材料に林地残材の利用開始
木づかい運動推進部門	森を育む紙製飲料容器普及協議会(東京都)	・カートカン、間伐材使用飲料カップの普及に貢献	
林野庁長官 感謝状	国産材利用推進部門	株式会社アールシーコア(東京都)	・国産杉「あきつログハウス」の販売を全国展開
		創建ホーム株式会社(広島県)	・主要構造材に合法木材(SGEC、FIPC等)を100%使用
	木づかい運動推進部門	株式会社大阪木材相互市場(大阪府)	・国産材展示施設「ウッド住まいる館」で耐震補強工法「壁柱」等の普及活動 ・全国初の東北産材「復興市」開催
		株式会社ソーケン(東京都)	・間伐材普及促進会を設立(平成22年)し、間伐材玩具等の制作、販売
(財)日本木材 総合情報センター 理事長 感謝状	国産材利用推進部門	有限会社ナベ企画(栃木県)	・小径間伐材の防腐エクステリア商品の考案
		栃木県木材需要拡大システム協同組合(栃木県)	・キャラクター「もっくん」で、木を植える、育てる、伐る、使う、森の循環の意義をPR ・開発した杉羽目板「すくすく」の販売
	木づかい運動推進部門	香川県木材需要拡大協議会(香川県)	・木の祭典「ウッドフェスティバル」を昭和62年より毎年「木の日」前後に開催
		ジャパンフォレスト株式会社グループ(大阪府)	・外食産業などにカーボンオフセット付き割箸の販売開始
東日本大震災復興特別部門 (財)日本木材総合 情報センター理事長 感謝状		日本製紙木材株式会社(東京都)	・東日本大震災後、東北の製紙用チップを内航船で近畿、西日本に移出し、製材工場の操業停止を回避
		一般社団法人日本ログハウス協会東北支部(福島県)	・福島県産材応急仮設住宅ログハウス600棟を建築し、被災者を支援
		株式会社磐城高箸(福島県)	・義援金付きの「三県復興 希望のかけ箸」(福島の磐城杉、宮城の栗駒杉、岩手の気仙杉)を販売し、復興を支援
		スモリ工業株式会社(宮城県)	・「山から家造り」事業として、全ての売上金を木材生産地に還流するシステムで復興住宅を支援
		株式会社ソーケン(東京都)	・間伐材利用の縁台キットを作り、仮設住宅に設置する「縁台プロジェクト」等で被災地を支援